



大分市歴史資料館

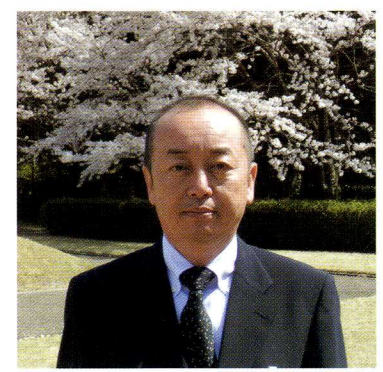
OITA CITY HISTORICAL MUSEUM

ニュース

vol. 99
2012.4.21



新館長ごあいさつ



4月より新しく歴史資料館館長に就任いたしました塔鼻です。昨年度までは文化財課で、埋蔵文化財調査と、公共事業や民間開発事業との調整をはじめ、文化財行政全般に携わってまいりました。

豊後国分寺跡史跡公園の整備や、資料館建設に伴って行われた発掘調査では、地元の皆さんと一緒に汗をかいたことが懐かしく思い出され、美しく整備された史跡公園に立ち、今まさに満開の桜を眺めながら、長い年月が過ぎたことをあらためて感じているところです。

昨今では、めまぐるしく変化を続ける現代社会において、古より先人たちが築き、守り、育ててきた郷土の文化遺産を、保存・活用・継承していくことが強く求められています。

本市といたしましても、「歴史を活かした」都市づくりを展開していく中で、大友館を中心とした、大友氏遺跡の整備を重点施策にあげ、取り組んでいるところでもあります。

また、史跡と一体となった教育施設である当館では、今後も、地域に根ざした魅力的な特別展の開催、文化・歴史に関する各種講座や遺跡見学会の開催、郷土の歴史に関する様々な情報発信を積極的に行うとともに、体験学習メニューの拡充や公募による自分史コーナーの充実を図り、市民の皆様にご学習・交流の場として大いに活用していただけるよう、資料館運営に努めてまいりたいと思います。

平成24年4月
大分市歴史資料館館長 塔鼻光司

ふれあい歴史体験講座

定員 各回70名程度(先着順)
時間 午前の部 9時30分～(約2時間)
午後の部 14時00分～(約2時間)

	実施日	内容	時間	材料費	受付開始日
第2回	5月19日(土)	勾玉作り	午前・午後	200円	5月 4日(金)
第3回	6月 2日(土)	土笛作り	午前・午後	50円	5月18日(金)
第4回	6月30日(土)	土偶作り	午前・午後	170円	6月19日(火)
第5回	7月 7日(土)	七夕飾り	午前・午後	無料	6月19日(火)

応募 上記の受付開始日より、電話にて応募ください。
(大分市歴史資料館:097-549-0880)

昔のおもちゃで遊ぼう

内容 歴史資料館隣の広い史跡公園で、竹馬・竹とんぼ・コマなどの昔のおもちゃで、思い切り遊びます。
日時 5月5日(土)【こどもの日】
9時～16時(15時受付終了)
料金 無料 ※事前の申し込みは必要ありません。



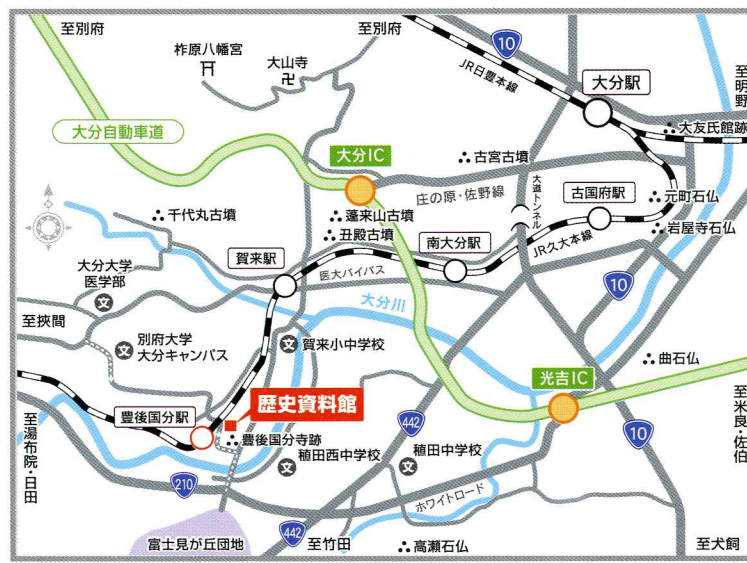
テーマ展示解説講座

内容 講座室でテーマ展示「絵画にみる物語」について、スライドなどで解説した後、展示会場を案内します。
日時 5月13日(日) 14時～15時30分
参加費 無料 ※事前の申し込みは必要ありません。

★上記の各講座等の参加者は観覧料が無料になります。

利用案内

- 開館時間** 9時から17時(入館は16時30分まで)
- 休館日** 月曜日 但し祝日の場合は開館
但し第1月曜日は開館し、翌火曜日が休館日
祝日の翌日 但し土・日曜の場合は開館
年末年始 12月28日～1月4日
- 観覧料** 大人200円(団体150円) 高校生100円(団体50円)
中学生以下 無料 ※団体は20名以上
※身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者は無料。
◎入館時に受付で手帳を提示してください。
- 交通機関**
 - JR久大本線 豊後国分駅下車 徒歩2分
 - 大分バス[国分新町ゆき] 歴史資料館入口下車 徒歩5分
 - 大分自動車道 大分IC・光吉ICよりともに約15分



発行日:平成24年4月21日
発行:大分市歴史資料館 〒870-0864 大分市大字国分960-1 TEL 097-549-0880 Fax 097-549-5766
※大分市ホームページの「観光・魅力」>歴史・文化財>歴史・文化を学ぶ>大分市歴史資料館」も併せてご覧下さい。
(http://www.city.oita.oita.jp/)

大分市歴史資料館 テーマ展示 I
絵画にみる物語
4月21日(土)～7月2日(月)

「絵画にみる物語」 会期：4月21日(土)～7月2日(月)

平安時代の中期以降、説話や物語に絵を付し、或いはその特定の場面を絵画にして楽しむことが広く行われるようになりました。そうした物語絵を代表するものに『源氏物語』を絵画化した「源氏絵」があります。そのほか、寺社の縁起や人物にまつわるものなど、さまざまな物語絵が描かれました。

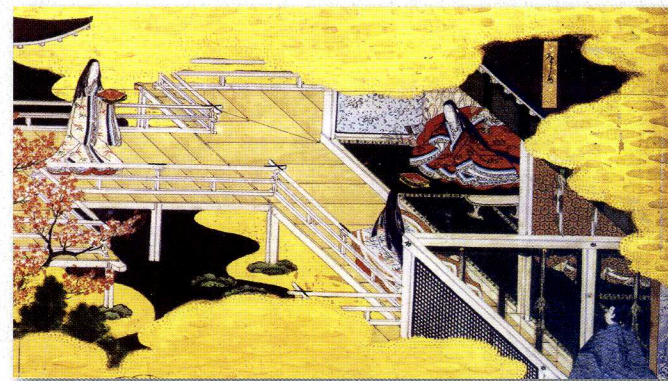
本テーマ展では、当館が所蔵する「源氏絵」をはじめ、藤原鎌足の伝説を絵画化した「大織冠図屏風」や、狩野探幽が模写した「由原八幡宮縁起絵巻」の縮図などを展示し、人々を魅了した物語の世界を紹介します。

伝宇佐八幡宮社家旧蔵の「源氏絵」

むらさきしきぶ ひかるげんじ
紫式部(978? - 1016?)が書いた光源氏を主人公とする長編物語『源氏物語』を題材に描かれた絵を、一般に「源氏絵」と呼んでいます。物語は、平安時代中期の貴族社会を舞台に、天皇の息子として生まれながら臣籍に下った光源氏の恋愛や栄達にいたる一生と、その子どもたちの人生を54帖にわたって綴ったもので、その人気とともに、これに絵を付けて楽しんだり、或いは絵画化して鑑賞したりすることが盛んに行われるようになりました。その源氏絵が屏風絵として描かれるのは、室町時代後期の16世紀前半頃からのことといわれています。本源氏絵はもともと、物語54帖の各帖から一場面ずつを選んで一対の屏風に描いた「五十四帖図屏風」として宇佐八幡宮の社家に伝わっていたもので、ある時期に場面ごとに切り離されて額装に仕立てられました。松の幹や枝ぶり、葉や叢の表現などから、狩野永徳の長男である光信(1565 - 1608)およびその周辺の手によるものとみられ、現存する「五十四帖図屏風」の中では早い時期の桃山時代末期頃の作品と考えられています。



とある僧庵で、籠から逃げた雀の子を追って縁先に出てきた可憐な少女(後の紫上)を垣間見る源氏。 [若紫](5帖)



六条院で、秋好中宮が紅葉を箱のふたにのせ、童女に持たせて紫上に贈るのを垣間見る源氏。 「少女」(21帖)

探幽縮図「由原八幡宮縁起絵巻」

大分市の柞原八幡宮に所蔵されている県指定有形文化財「由原八幡宮縁起絵巻」(絵は土佐光茂、詞書は青蓮院尊鎮法親王)上・下2巻を、狩野永徳の孫で、江戸幕府の御用絵師として活躍した狩野探幽(1602 - 1674)が手控えとして模写したものです。絵巻には、八幡神の霊験と、延暦寺の聖人「金亀和尚」が宇佐八幡宮に詣で修行を行っていた際に八幡神の託宣を受け、その御験である八足の白幡が天空から舞い降りて大桶にかかり、その地に社殿を建てたとする柞原八幡宮創建の由来が説かれています。絵巻を写した縮図巻頭には「豊後府内藩主松平忠昭から領内の八幡宮にあるこの絵巻を寛文2年(1662)8月11日に持ち込まれた」という意味のメモ書きが記され、この内容と関連する探幽の書状が柞原八幡宮に現在伝えられています。その松平忠昭に宛てた8月12日付の探幽書状によると、「八幡之縁起一覽仕候、土佐光茂真筆二而御座候」とあり、探幽が忠昭の依頼を受けて「由原八幡宮縁起絵巻」を鑑定し、土佐光茂の真筆に間違いのない旨を回答したことが分かります。本縮図は、このときに探幽が自らの絵画研究のために書き写したものと考えられます。

探幽はこうした縮図を数多く描き、中でも興味を持った作品は丁寧に模写し、淡彩まで施したといわれています。本縮図には赤や青などの彩色を施し丁寧に写された場面があり、探幽が「由原八幡宮縁起絵巻」に対して大いに興味を示したことが想像されます。



大桶にかかった八幡神の御験である八足の白幡を崇める金亀和尚。



神功皇后が乗る船の進行をさまたげる大牛を海へと投げ入れる翁姿の住吉神。

「大織冠図屏風」

天智天皇より最高位の冠位「大織冠」を与えられた藤原鎌足の伝説を絵にした物語図屏風です。この大織冠の物語は、「鎌足の娘、紅白女は絶世の美女と知られ、その噂を聞いた唐の太宗皇帝の求婚に応じて海を渡り后となった。やがて、鎌足の興福寺金堂造営の計画を知った紅白女は、本尊の百毫に使ってもらおうと思い、太宗が秘蔵する“無価宝珠”を願い受け、日本へと送った。宝珠は勇将万戸将軍に護られて船で送られたが、途中これを奪い取ろうとする竜王ならびに加勢に参じた阿修羅の軍勢と激しい合戦となった。この戦いに勝利した万戸将軍ではあったが、舟に乗って漂ってきた竜女に惑わされて宝珠を奪われてしまう。将軍からこの知らせを聞いた鎌足は、宝珠を奪われた志度の浦に赴き、一人の海女を妻に迎えて一子をもうけた。その子が三歳になった時に、妻である海女に事の次第を語り、竜宮から宝珠を取り返してくれるように頼む。海女は海へ潜り竜宮へと向かったが、守りは堅く、これに一計を講じた鎌足は、海上に舞台を設けて歌舞管弦を催させ、竜王たちをおびき寄せることにした。うまく竜王たちの関心をひきつけることに成功し、その隙に海女は宝珠を奪い返すが、もう少しのところで竜に追いつかれて手足を喰いちぎられてしまう。死にいたる直前、海女は自ら胸に傷をつけて宝珠を隠して亡くなった。それを鎌足が見つめ、無事、興福寺金堂の釈迦如来像の眉間に納めた」という粗筋で、江戸初期に当時流行した芸能「幸若舞」によって勇ましい合戦の場面とともに広く知られていました。その絶大な人気を背景に描かれたのが、こうした大織冠図屏風であったといわれています。



宝珠をめぐる戦う阿修羅軍と万戸将軍の軍勢。



宝珠を奪い返した海女を襲う竜。

表紙

素性を隠して妻とした海女に事の次第を語り、竜王に奪われた宝珠を取り返してくれるように頼む藤原鎌足の様子が描かれています。